



『7月14日倉敷教会巡回』

倉敷巡回の前に、月報ク
リストファープレスを見せ
ていただきました。平野一
郎司祭が東日本大震災のポ
ランティアに行かれ、小名
浜の教会で行われていた「ほ
っこりカフェ」を倉敷の教会
に導入されて、4月3日
で5周年のことでした。

「最近はどうですか」と現
状をお伺いしますと、毎週
水曜日、午後2時半から5
時半まで。最初の1時間は
「ほっこり」お茶を飲み、そ
の後第2部は、第1週「聖書
の輪読会」、第2週「聖書か
ら人生を学ぶ」、第3週「キ
リスト教講話」、第4週「聖
歌を歌う」というプログラム
です、とのこと。5年間続
いていることに感心しなが
らの巡回でした。

『なんでも聞いちゃだめ』

当日、管理牧師の平野司
祭は、福山教会に行かれて
いますから、礼拝は私が担
当。礼拝後、昼食を頂きな

がら、教区の宣教委員も担
つてくださっている上野良
雄さんの司会で、懇親会が
始まりました。

「主教さんが倉敷に来られ
るのは一年に一度、何でも
聞いてください」と上野さ
んの合図で質問がスタ
ト。

ほっこりカフェがきつ
けになって礼拝に来られる
ようになった方が「聖書を読
んでみると、あれをしないさ
い、これをしないさ、ばか
りで大変です。」と質問され
ました。それに答えて、私
は「最初から命令が多いと思
います。それ以上に、
神様が何をしてくださった
か、そのことに集中され
ら」と思います。父なる神様
は、イエス様を遣わして、
神様が私たちを愛してくだ
さっていることを伝え、死
からの復活によって永遠の
命を与えて下さっているの
です。」というお話をしまし
た。「それを信じるのが難し
いのです。」というお返事
を頂き、横におられた方から
「早く洗礼を受けなさい、
というお勧めがあったり、
私の方は、その時丁度読ん
でいましたヘンリー・ナウ
エンの『放蕩息子の帰郷』か
ら神様の愛を証しすること
が出来ました。小さいけれ
ども一つの働きを神様が用
いてくださっていることに
感謝した巡回でした。

(神戸教区主教)

神戸教区 神学塾主催 信徒セミナー報告

去る2019年7月6日

(土)に岡山聖オーガスチン教
会に於いて2019年度第1
回目の神戸教区神学塾主催信
徒セミナーが開講されまし
た。講師は、昨年に続き京都
教区の黒田裕司祭(ウイリアム
ス神学館館長)をお招きし、
「橋渡し」の奉仕に向けて「信
徒の奉仕職」その意義と可能性
〜というテーマに沿って講話
が行われました。

信徒と聖職、一人ひとりに よる働きの大切さ

今回のセミナーには14名内
スタッフ2名が参加して下さ
いました。講義の冒頭、黒
田司祭はカリスマ性を持つ
たスターのような人材のリ
ーダーシップによる教会宣
教、営み等は過去の教会の
歩みの中でみられることが
あるが、今日において求め
られているものは、信徒・
聖職一人ひとりの参与、「ト
ータル・コミットメント」で
あると述べられました。

セミナーの内容

セミナーの流れとしては、
1. 信徒奉仕職という言葉、
日本聖公会における信徒奉事
者についての解説から始ま
り、2. 信徒奉仕職の歴史を
丁寧に関観、特に英国聖公会
での信徒奉仕職の変遷、3.
今日の英国聖公会における信
徒奉仕職の紹介、4. 「協働的
ミニストリー」及び信徒奉仕
職、5. アングリカン・コミ
ュニオンにおける最近の動向
についての解説があり、最終
的な「まとめ」、質疑応答とい
うものであります。

今後の課題

講話を通して感じた点は、
海外の聖公会管区の諸教会に
おける信徒奉仕職の働きは、
日本聖公会と比べて多岐に渡
り、それに携わる信徒の方々
のための養成プログラム、財
政面も充実しており、その格
差は歴然としていることであ
りました。今後、神戸教区が
このような多様な情報、資料
をどのようにして適用し、活
力に満ちた教会宣教を行って
いくかが課題であると感じて
おります。

全世界聖公会レベルでは、
「信徒奉仕職」は21世紀の教会
宣教においては必須のものと
して考察されています。講義
の中でも意見が交わされまし
たが、今後の日本聖公会
における「信徒奉事者」に
は、どのような働きが求
められているのか? どの
ようなことができるのか
ということに関する活発
な意見交換が教区、各
教会にて行われる必要が
あると感じた次第であり
ます。



(司祭 和広・
神学塾運営委員)